

1台1ヶ月後に設置され、それで予報 Regional Centerとして OK だと自慢をしていた。つまりこの Fax 装置で手書きのプログノを流すことができるからだという。それにこの装置があれば、タシケントや東京からのプログノも取れるから、それでこのプログノを修正して送り出すこともできるという。他力本願がまだまだ残っているという感じである。電子計算機として IBM 1620 という小型機(1401程度)を入れたいのだというちよつと日本では想像もつかない。予報作業では赤道附近だから流線解析が主である。高層解析も略日本と同じである。面白いと思ったのはフロントを殆ど画かない。雨期

の天気図も見せて貰ったが、大まかに前線帯を引くだけで、日本や欧州のようにやたらとフロントが多いことはない。説明を聞くと、印度洋の影響が強く、フロントはすぐ変質するという事、それに雨は大部分が対流性のもので、フロントを引いても何の役に立つのかというのである。従って赤道前線帯だけが問題で、他の擾乱は寿命が非常に短かく、連続性がないことを強調していた。もう1つ面白く思ったのは長期予報のために両半球全域を含む天気図を用いていて、日本で想像した以上に南北両低緯度域のデータが入っている点にあった。

理 事 会 便 り

第2回(第14期)常任理事会

日 時：昭和41年7月4日(月) 15:00~19:30

場 所：気象庁第3会議室

出席者：島山, 北岡, 神山, 大田, 桜庭, 三宅, 小平, 吉野, 朝倉, 須田, 根本。(順序不同)

議 決

1. 評議員の選定

定款第23条により評議員を新に選出して、新理事長から委嘱する必要があり、理事による選挙によって選出することになった。なお常任委員会としては下記9氏を候補として推せんすることになった。

荒川秀俊, 倉石六郎, 武田京一, 仁科伸彦, 和達清夫, 神原健, 柴田淑次, 中野猿人, 吉武素二。(50音順)

なお旧評議員および旧委員には感謝の手紙を理事長より出す事になった。

2. 委員の選定

定款第25条による委員について、理事改選に伴って新たな委員を理事長が任命することになり、理事会として次の各氏を選定した。なお天気編集委員については、各管区气象台の協力を願うことも多いので、理事長から各管区台長によりしくお願いすることになった。

各委員

庶 務：安藤隆夫, 田代茂夫。

講演企画：丸山晴久, 竹内清秀, 河村武, 関口理郎, 菊地幸雄。

集 誌：竹内清秀, 曲田光夫, 嘉納宗靖, 内田英治, 二宮光三, 斎藤直輔, 藤原美幸。

天 気：河村武, 岡本雅典, 三崎方郎, 内田英治, 中村繁, 久保木光照, 他に1名未定。

地区編集委員

小野寺晶夫, 吉田作松, 安藤隆夫, 山本主夫, 今門宗夫。

国際交流：藤範晃雄, 磯野良徳, 穴戸信行, 荒勝, 荒井康, 磯崎一郎, 瀬下慶長, 久保田効。

外 国：竹内清秀。

気研ノート：篠原武次, 土屋清, 曲田光夫, 善如寺信行, 村井潔三, 根本修。

会 計：鈴木徹, 春田正男

長期計画：未定

なお、講演企画担当に朝倉理事を追加する。

3. せん風について気象庁への回答について

(経緯) 気象庁では、業務上、発達した低気圧に対して特別な名称を付したいとのことで、気象学会に意見を求めて来たので、さきに天気(本年2月号)に掲載して、広く各会員の意見を募っていた。これに対して会員から何らの意見提出がないまま今日に至った。今般、気象庁より催促があった。(決) これについて審議の結果、次の理由により後記のとおり処置することになった。

せん風は一般ではつむじ風と混同するおそれがある。